

## 第24回研究大会・通常総会 開催される

日本国際秘書学会第24回研究大会は、大会テーマ：「人材育成としての秘書教育－秘書的資質へのアプローチ」とし、2015年10月3日（土）神戸女子短期大学にて開催されました。大津洋子会長、中川伸子大会委員長の挨拶に続き、秘書研究分科会共同研究報告および3名の会員の研究発表が行われました。その後、基調講演、ラウンドテーブル形式ディスカッションと続き大変に実りの多い大会となりました。



### ご挨拶とご報告

日本国際秘書学会 会長 大津 洋子

第24回全国大会が、去る10月3日に神戸女子短期大学（ポートアイランドキャンパス）の素晴らしい会場にて開催されました。晴天に恵まれ、多くの会員に加えて11名のビジター会員の参加も得て大変盛会となり、嬉しく思っております。開催に際して会場校には数多くの便宜を計っていただきました。また、学長直々に会場にお越し頂きご挨拶を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。中川大会委員長、福井副委員長をはじめ大会委員のご尽力に、あらためて感謝いたします。

今年も全国大会中に「2015年度通常会員総会」を実施いたしました。特に、会費増額のご承認、各活動における経費節減に温かいご理解をいただき、会計決算がプラスに転じたことに、会長として謝意を表したいと存じます。

さて、21世紀の大きな特徴の1つに、知識・サービス経済の到来を挙げることができるでしょう。わが国でも多くの人々が知識産業、サービス産業（金融、通信、IT関連、バイオテクノロジー、ロボット開発など）に従事するようになりました。また、既存産業でも生産性の向上や商品の流通・販売行程において情報技術が不可欠となり、ビジネス環境は激変しています。換言すれば、企業にとって知識とノウハウをもつ知識労働者が最も重要な資源となったことを意味します。グローバル化が企業を始めあらゆる組織に対して、彼らの革新性や創造性に依存せざるを得ない状況をもたらしていることが、この背景にあります。その結果、自己実現を感じられる職場と仕事を人々に与えることにも、対応を迫られているのです。従来の秘書理論に対して別の角度からの再検討が今こそ必要であることは、必然と言えます。

このようにパラダイム転換が進行する中、今大会での「グローバル時代に適合した秘書機能の探究」をテーマにした秘書研究分科会の中間報告は、まさに時宜を得たものでした。日本秘書協会との協力によって実態調査が実施されたこと、活動の一部に大阪国際大学からの研究助成を受けたこと、などが報告されました。秘書研究に資する大きな成果を期待したいと思います。そして、本学会の社会的存在意義をさらに高めるべく、各支部の研究会やワークショップへの参加、全国大会における口頭発表、研究年報への投稿などを通じて、会員一同の一層の参画とご支援を祈念しております。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

## 大会統一テーマ：

# 「人材育成としての秘書教育 －秘書的資質へのアプローチ－」

\*\*\*\*\*

### 基調講演

## 「企業が求める人材像について - “気”の利く社員を求めて-」

山岸景子氏（アストラゼネカ株式会社 人事総務本部 総務部長）

30年以上にわたる製薬企業での秘書、人材育成の経験に基づき、現在の企業、経営者が真に求めている人材と、また、企業の立場から教育現場ではどのような視点で育成していただきたいかについて述べる。

企業の中で秘書(Secretary)という職種・部署が消えつつあるといわれて久しいが、今も規模・人数が減少し、形や呼び方が変化しながら、存在している。内資系企業でも秘書部ではなく CEO 室のような名前を聞くようになってきている。外資では昔から Secretary という言葉は使われず、Personal Assistant や Executive Assistant が一般的である。最近では会長、社長、役付き役員にしか秘書はつかないので、ニーズは少なくなっているが、厳然として存在している。

内資・外資を問わず、秘書の必須要件はやはり語学である。大学の知名度、偏差値にかかわらず、語学力の高い学生であれば、いくらでも秘書や外資系企業に就職することができる。英語をマスターすれば未来は明るいという簡単で、実は難しいことを若者に実感させることが重要である。

内資・外資を問わず新人や第二新卒は企業風土に合うよう育成する期間が比較的長くとられている。一方、中途採用は即戦力として期待されているので、3か月から半年程度で成果を求められる。転職時には、その分野の専門性に加え各種制度、IT システムの変化に速やかに対応できる IT リテラシー、適応力、精神力などが要求される。

これらの能力に加えて企業がどのような人材像を求めているのかを突き詰めると、抽象的であるが、「気が利く社員」ということになる。面接する企業側は、気の遠くなるような膨大な数の、しかも類似した文章が記載された履歴書と格闘し、何回かの面接を経て最終面接で内定を出し、最後に学生が企業を決定する。面白いことに最終決定に男女を問わず親、特に母親が影響していることが多い。健全な家庭環境がいかに重要かを痛感させられる。

(山岸景子氏略歴：1983年大阪大学薬学部卒業。同年田辺製薬(現田辺三菱製薬)入社、研究企画室勤務。1989年に秘書部社長秘書、秘書課長を経て1999年秘書室長に就任。2002年から人事部人材育成課長、学術研修部人材育成課長を歴任し、製薬企業の人材育成に従事、2008年に人材育成の分野でアストラゼネカに転職、2010年から人事総務本部総務部長)



\*\*\*\*\*

### ラウンドテーブル形式ディスカッション



\*\*\*\*\*

「グローバル時代に適合した秘書機能の探究」

森 久子（東京家政大学 報告者） 高橋真知子（常磐短期大学）（幹事）

大津 洋子（名古屋学芸大学短期大学部名誉教授） 平田 祐子（大阪国際大学短期大学部）

1. 分科会設立趣意

我が国では、20 世紀後半から IT 技術の急速な進展とともに、グローバル化が加速的に進んでいる。その環境変化は、ビジネス現場における秘書の在り方にも大きく影響を与えていると推察される。ここに秘書の実態を調査・研究することによって新たな秘書像を探究する意義がある。さらにそれを具現化するための基盤能力を特定し、今後の秘書教育の一助としたい。

2. 研究の目的

「グローバル時代に適合した秘書機能の探究」

- ①グローバル時代の秘書に求められる能力とスキルの特定化
- ②高等教育機関における基盤能力育成プログラムの構築

3. 活動経過

- ①2014 年 11 月 15 日 第 23 回全国大会総会にて、「秘書研究分科会」設立承認
- ②2014 年 12 月 21 日 第 1 回研究会(横浜)  
研究の枠組みを検討
- ③2015 年 4 月 1 日 「大阪国際大学 特別教育研究」に採択される
- ④2015 年 5 月 9 日 第 2 回研究会（東京）  
（社）日本秘書協会主催アンケートの設問検討
- ⑤2015 年 6 月 28 日 第 3 回研究会（名古屋）テキストマイニング分析の研修
- ⑥2015 年 7 月 日本秘書協会アンケート調査実施（現在集計分析中）
- ⑦2015 年 8 月企業への聞き取り調査開始

4. 研究概要

高橋真知子：企業のグローバル化と女性管理職の展望  
大津洋子：グローバル時代の秘書の情報戦略—ソーシャルメディア概念を適用して—  
平田祐子：ナレッジワーカー教育に向けた秘書教育プログラム  
森久子：日本における秘書の現状と未来



研究発表 I

「ナレッジワーカー育成に向けた秘書教育プログラムの開発（1）」

平田 祐子

（大阪国際大学短期大学部）

本研究の目的は、日本の企業がグローバル社会を迎え、①「いかなる変貌を遂げ、いかなる人材を求めているか」②「秘書室・秘書課の秘書に求められる能力は何か」③「これからの社会が求める秘書をどのような人材開発プログラムで育てるか」について概念推移に伴う視点から追究するものである。



時代の流れにより産業革命・生産性革命・マネジメント革命が起こった根底にあるものは、「知識の意味の根本的な変化」である。かつて「知識を持つ人間」は「教育ある人間」とされていたが、そのような一般知識から専門知識への転換が創造する力となり、専門化された知識と専門家である知識人から構成されることにより新しい社会を生み出した経緯がある。秘書教育においても従来の教養ある人間としての一般知識を有する秘書を育てるのみならず、専門家に近い専門知識を身に付けることが必要となってくる。

企業組織の一つである秘書課・秘書室、そこでの「生産手段がどのような形で表れるのか」「秘書にとっての生産手段としての知識とは何か」が問題となってくる。秘書の生産手段としての知識として以前は教養教育と捉えられ留まっていたものと推察する。しかし、組織が共通の目的のために働く専門家からなる人間集団である以上、秘書も専門性を身につけることが不可欠となる。

秘書教育に Project-based Learning（プロジェクト型学習）や Problem-based Learning（問題基盤型課題解決型）を導入する意義は以下の 5 点に見出すことができる。①主体的に問題発見して能動的な学習方法、②問題解決から深い知識と応用力が身に付く、③単なる記憶学習に留まらず知識が蓄積する、④グループ学習形式であるためコミュニケーション能力が高まる、⑤グループ学習形式から「人間力」を磨くことができる。

\*\*\*\*\*

## 研究発表 II

\*\*\*\*\*

### 「医療秘書の資質-思いやりの心を育むアプローチ-」

東野 國子

(関西女子短期大学)



医療秘書とは病院の院長秘書、医学部の教授秘書などの個人付きの秘書や、初診受付、再診受付、外来受付などで患者の受付対応、医療費の会計業務、診療報酬明細書（レセプト）の作成、外来での診療補助や、病棟のナースステーション内で事務を行うクラーク、医局秘書などの総称であり、業務の内容は多岐に渡る。

企業秘書との一番の違いはお客様として来られるのが主に患者様であるということである。患者様は、検査や治療に対しどの程度の痛みを伴うのか、治療費はどのくらいかかるのかといった不安を持っている。このような患者様の対応をすることは医療秘書の大切な業務である。

担当する「医療秘書概論」の科目で学生に医療界の現状の話をする際には高齢者や介護の問題、尊厳死、安楽死、医療事故、延命治療など現実に問題となっている話を取り上げたり、「医療秘書実務」の科目では、授業の中でロールプレイを中心に、①教員が自分の体験や過去に実際にあった事件や事故などについて話す、②学生に新聞やインターネットから自分が気になった医療関係の記事を調べさせて発表させる、③記事について話し合いをさせる、④車いすの操作と体験、アイマスクの体験等、実際に体験させる等のアプローチを行ってみた。

その結果、「人を思いやる」心は芽生え始めていると感じているが、それだけでは不十分だ。実際の業務では患者様に対する「思いやり」を表情や、話し方、言葉遣いで表現する必要があるからだ。つまり相手を思いやったうえで、それを表現するためのコミュニケーション能力が不可欠であると痛感した。

\*\*\*\*\*

## 研究発表 III

\*\*\*\*\*

### 「職業能力育成のための秘書的教育の試み」

— エンployアビリティへの一歩 —

柚木崎 千春

(南九州短期大学)

中央教育審議会は「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」について社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な要素のひとつとしている。本研究は、将来の社会の担い手である学生を対象にこれらの課題を意識し、秘書の職務を核とする学習により、本質を捉える力、他者を感じる力、表現する力といったスキルを基軸とした思考を身に付けるための試みである。

南九州短期大学の秘書学系科目履修学生を受講理由の多くは、「就職活動・面接試験等に活かすためのスキルを身に付けたい」が多数である。望ましい結果へ道筋をつけるといったプロセスを学修し習慣化するための試みとして「物事の関係性を学ぶ」ことの意義と重要性を掲げ、職場環境の変化が著しい現代だからこそ「秘書的な物事の捉え方」を理解することが必要であり将来のエンployアビリティに繋がると考える。

上司を取り巻く「人と情報の中継基地」としての秘書的機能を理解し、コーディネーターとして相応しい判断と行動が出来る能力を培うことを目標として、本学1年次に秘書学概論、2年次前期に秘書実務を履修した医療事務・医療秘書コース2年生(44名)を対象に、利害関係・価値観の異なる複雑な人間関係をケーススタディとして出題した。

この試みは、テキストに沿った説明、設問に対し正答を解説するものではなく、立場・場面をイメージしながら、現状と相応しい対応をじっくり考える時間を取り各々が自分なりの意見を表出し、他者との違いに気づきを得たことは授業方法として一定の成果はあったと考える。学生からは、「将来の職場がどのような環境であるかは分からないが、人間関係構築の基本が理解できたように思う」「秘書の立場を理解することでどのように対応したらよいかのスタートラインが理解できた」との感想を得た。秘書学系科目を担当する教員として毎年、社会人の卵と接するたびに対人関係を理解し好ましい人間関係スキルがコミュニケーションスキルに繋がる重要な課題であると痛感する。



## 支部だより

### 【東日本支部】 理事（東日本支部長） 金子章予

#### 1. 支部会活動報告

##### (1) 支部会

- ・ 第1回支部会 2015年8月21日～9月31日（サイバー会議：東日本支部活動の今後の進め方について）
- ・ 第2回支部会 2015年3月10日～3月22日（サイバー会議：2016年度全国大会について）

##### (2) ワークショップ

- ・ 第1回ワークショップ 2015年9月18日
  1. テーマ：「対人関係ワークショップ(1)ーコミュニケーション学の視点から大学生の対人関係を考える」
  2. 場所：東京ウィメンズ・プラザ
  3. 講師：瀬沼文彰氏（桜美林 大学非常勤講師、日本笑い学会理事）
- ・ 第2回ワークショップ 2015年9月26日
  1. テーマ：「対人関係ワークショップ(2)ー陪審員としての話し合いの仕方」
  2. 場所：東京ウィメンズ・プラザ
  3. 講師：金子章予（東日本支部長）
- ・ 第3回ワークショップ 2015年10月24日
  1. テーマ：「対人関係ワークショップ(3)ー傾聴ワーク」
  2. 場所：東京ウィメンズ・プラザ
  3. 講師：金子章予（東日本支部長）

#### 2. 今後の予定

- (1) 2016年度全国大会に向けて 2016年4月??5月に準備委員会を開催予定。

### 【西日本支部】 理事（西日本支部長） 平田祐子

#### 1. 支部研究会の開催

##### (1) 支部研究会開催の打合せ

- ・ 2014年6月 西日本支部会の方向性に関する意見交換。9月に支部研究会を開催することとした。テーマは「キャリア教育における問題点と新たな教育手法」に決定。講演者は望木郁代氏（三重大学）に決定。
- ・ 2014年8月 支部研究会準備委員会を開催。プログラムと要旨集の作成、準備物の最終確認。

##### (2) 西日本支部研究会を開催 [於：四天王寺大学（あべのハルカス サラトキャンパス）]

- ・ 2014年9月 参加者16名。研究発表4件（発表者：森山廣美氏、北原文香氏、若生真理子氏、稲本恵子氏）。

#### 2. 全国大会委員会（支部会を兼ねて）の開催

- ・ 2014年12月 第24回全国大会に向けて委員会を開催。委員長、事務局、会場に関する審議。
- ・ 2015年3月 第24回全国大会委員会を発足。委員長に中川伸子氏、副委員長に福井愛美氏を選任。事務局と会場は神戸女子短期大学に決定。
- ・ 2015年5月 今年度の支部会の振り返り、ならびに全国大会委員会を開催。テーマ、基調講演者、プログラムに関する審議。

\*\*\*\*\*

## 2015(平成27)年度 通常会員総会

1. 日時 2015(平成27)年10月3日(土) 午前10:10～11:00
2. 場所 神戸女子短期大学

### 3. 議案

#### <報告事項>

- 1) 会員の状況について
- 2) 学会運営協力(寄付)の追加報告 ※会則第5章「会計」第26条1項
- 3) その他

#### <決議事項>

議案1 2014(平成26)年度事業報告ならびに収支決算について

- 1) 2014(平成26)年度事業報告
- 2) 2014(平成26)年度収支決算報告
- 3) 2014(平成26)年度監査報告

議案2 2015(平成27)年度事業計画ならびに収支予算案について

- 1) 2015(平成27)年度事業計画(案)について
- 2) 2015(平成27)年度収支予算(案)について

議案3 その他

4. 成立要件 出席者 24名, 委任状 30名 計 54名 ※会則第20条5項  
(会員の3分の1以上が出席しなければならない。ただし、委任状による出席を認めることができる。)

5. 議長 会長 大津 洋子 ※会則第20条6項

## 報告事項

### 1) 会員の状況について

#### (1) 会員数

会員の種類	2014年度通常総会時	2015年度通常総会時
名誉会員	1名	1名
個人会員	84名	80名
グループ登録会員	0名	0名
賛助会員	0名	0名
会員総数	85名	81名

#### (2) 入退会等状況(2014年度総会以降～2015年度総会時)

入会者：個人2名 辻 京子 宇都宮隆

退会者：個人6名 田和真希 水口美知子 水谷啓子 森本訓弘 河原和英  
島田 薫

資格喪失者：0名

(敬称略)

### 2) 学会運営協力(寄付)の追加報告について

昨年度、歴代の役員経験者の皆様に学会運営協力の寄付をお願いしましたところ、すでにご報告の通り、多くのご賛同いただきました。あらためて感謝申し上げます。

昨年度の総会ご報告以降に下記のご寄付を頂戴いたしました。ここに追加報告いたしますとともに感謝の意を表します。

・5万円 北垣日出子(前会長)

## 決議事項

### 議案1 2014(平成26)年度事業報告ならびに収支決算について

- 1) 2014(平成26)年度事業報告 ……資料1-1～1-4 参照
- 2) 2014(平成26)年度収支決算報告 ……資料2-1～2-4 参照
- 3) 2014(平成26)年度監査報告 ……資料3-1～3-4 参照

### 議案2 2015(平成27)年度事業計画ならびに収支予算案について

- 1) 2015(平成27)年度事業計画(案)について ……資料4 参照
- 2) 2015(平成27)年度収支予算(案)について ……資料5 参照

### 議案3 その他

## 諸連絡

○学会誌「研究年報」編集委員会について

2015年度以降の編集委員のご紹介

◎椿 ますみ 会員 大塚 映 会員 周藤亜矢子 会員

上記のとおり相違ありません。

2015年12月1日

議事録署名人

議長(会長) 大津 洋子

理事(副会長) 高橋真知子

理事 北川 宣子

以上

## 2015年度通常会員総会資料

### 資料1-1

#### 1) 2014(平成26)年度事業報告

##### 1. 報告の事業年度

2014(平成26)年6月1日～2015(平成27)年5月31日

##### 2. 報告の事業概要

・2014(平成26)年11月16日 第23回全国大会開催

担当支部:東日本支部

会場 カリタス女子短期大学

統一テーマ「時代に適合する新たな秘書機能を探る  
—組織の実態と提言を研究に活かす—」

大会委員長:四之宮玲子

・2015(平成27)年2月28日 ニューズレターNo.28発行

広報統括理事:青木雅幸

・2015(平成27)年5月1日 研究年報第22号発行(78ページ)

「報告」2編

「特集 第23回全国大会基調講演およびシンポジウム記録」

編集委員長:寺島雅隆

3. 支部会研究会・ワークショップ

- |               |                               |             |
|---------------|-------------------------------|-------------|
| ・東日本支部（含中部地区） | 支部会 2回開催                      | 東日本支部長：金子章予 |
| ・西日本支部        | 支部研究会 1回                      |             |
|               | 支部会 5回（含 2015 年度全国大会準備委員会 2回） | 西日本支部長：平田祐子 |

4. 役員会

理事会 11回開催（含サイバー会議 10回）

5. 各種委員会

- |             |                |
|-------------|----------------|
| 第23回全国大会委員会 | 2回開催（東日本支部）    |
| 第24回全国大会委員会 | 2回開催（西日本支部）    |
| 研究年報編集委員会   | 多数回開催（含サイバー会議） |
| 東日本支部       | 委員会を設置していない    |
| 西日本支部       | 6回開催           |

資料 1-2

東日本支部会活動報告

東日本支部長 金子章予

1. 支部会の開催

(1) 第1回支部会

- 1) 日 時：2014年9月27日（土）
- 2) 場 所：東京都南部労政会館（東京都品川区）
- 3) 内 容：2014年度の活動方針および2014年度の役割分担、その他
- 4) 参加人数：5名

(2) 第2回支部会

- 1) 日 時：2014年10月11日（土）
- 2) 場 所：カリタス短期大学（神奈川県横浜市青葉区）
- 3) 内 容：第23回全国大会の準備状況の確認
- 4) 参加人数：7名

2. ワークショップの開催

(1) 体験型コミュニケーション講座

- 1) 日 時：2014年9月27日（土）
- 2) 場 所：東京都南部労政会館（東京都品川区）
- 3) 講演タイトル：「体験型コミュニケーションを体験する！」
- 4) 講 師：野澤広美氏（米国認定 NLP マスタープラクティショナー）
- 5) 参加人数：講師含め、6名（会員3名、非会員3名（内講師1名））
- 6) 内 容：様々なコミュニケーションワークの体験

(2) 秘書にとっての姿勢・健康講座

- 1) 日 時：10月11日（土）
- 2) 場 所：カリタス短期大学（神奈川県横浜市青葉区）
- 3) 講演タイトル：「和のフィットネス（NOSS）とフラメンコを体験する！」
- 4) 講 師：横田増子氏（舞踊家、レクリエーションコーディネーター）
- 5) 参加人数：講師含め、5名（会員4名、非会員1名（講師））
- 6) 内 容：和のフィットネス（NOSS）とフラメンコの基本姿勢の指導と実践

以 上

## 西日本支部会活動報告

西日本支部長 平田 祐子

### 1. 支部研究会の開催

#### ①支部研究会開催の打合せ

- ・2014年6月 西日本支部会の方向性に関する意見交換。9月に支部研究会を開催することとした。テーマは「キャリア教育における問題点と新たな教育手法」に決定。講演者は望木郁代氏（三重大学）に決定。
- ・2014年8月 支部研究会準備委員会を開催。プログラムと要旨集の作成、準備物の最終確認。

#### ②西日本支部研究会を開催〔於：四天王寺大学（あべのハルカス サテライトキャンパス）〕

- ・2014年9月 参加者16名。研究発表4件（発表者：森山廣美氏、北原文香氏、若生真理子氏、稲本恵子氏）。

### 2. 全国大会準備委員会（支部会を兼ねて）の開催

- ・2014年12月 第24回全国大会に向けての準備委員会を開催。委員長、事務局、会場に関する審議。
- ・2015年3月 第24回全国大会準備委員会を発足。委員長に中川伸子氏、副委員長に福井愛美氏を選任。事務局と会場は神戸女子短期大学に決定。
- ・2015年5月 今年度の支部会の振り返り、ならびに全国大会に向けての準備委員会を開催。テーマ、基調講演者、プログラムに関する審議。

以上

## 秘書研究分科会活動報告

分科会幹事 高橋眞知子

### 1. 秘書研究分科会 共同研究者（50音順）

幹事 高橋眞知子 常磐短期大学  
メンバー 大津洋子 名古屋学芸大学短期大学部（名誉教授）  
平田祐子 大阪国際大学短期大学部  
森 久子 東京家政大学

### 2. 研究テーマ

グローバル時代に適合した秘書機能の探究

- ① グローバル時代の秘書に求められる能力とスキルは何か。
- ② いかんにして高等教育機関でそれらの基盤を育成するか。  
—従来の即戦力の育成から長期的なキャリア形成を促進する秘書教育への転換—

### 3. 活動経過（2014.11.15～2015.5.31）

- ① 2014年11月15日 第23回全国大会総会にて、分科会設立を承認される。
- ② 2014年12月21日 第1回研究会（横浜）
- ③ 2015年4月1日「大阪国際大学特別教育研究」に採択され活動資金の一部となる。
- ④ 2015年5月9日 第2回研究会（東京）

### 4. 研究概要

詳細は、全国大会の「分科会 中間報告」にて報告予定。

## 資料2-1

## 一般会計

## 日本国際秘書学会

## 2014（平成26）年度一般会計収支決算書

（2014年6月1日から2015年5月31日）

単位：円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	-103,388	研究年報発行費	247,345
東日本支部繰越金	-711	（印刷費	223,815）
西日本支部繰越金	156	（諸経費	23,530）
全国大会収益	6,979	印刷費	45,946
会員年会費	660,000	通信費	27,743
（個人会員〔含過年度分〕	651,000）	広報活動費	76,244
（学生会員	5,000）	消耗品費	0
（新会員	0）	会議会合費	14,480
（アソシエイト会員	4,000）	旅費交通費	8,580
雑収入	598	分科会費	8,520
預貯金利息	41	雑費	1,000
学会運営協力金（寄付）	330,000	手数料	3,348
		支部委託金	30,000
		次年度繰越金	430,469
	893,675		893,675

注）第23回全国大会会計報告、各支部会計報告は含まれていない。

2015年5月31日

会計担当理事 北川 宣子



## 資料2-2

## 特別会計（東日本支部）収支決算書

## JAISS 東日本支部収支報告（2014.6.1～2015.5.31）

（単位：円）

収入の部		支出の部	
今年度支部運営費	15,000	会議費	4,240
支部ワークショップ参加費	5,500	講師謝礼	16,000
（会員 @500円×7人, 非会員@1,000円×2人）*		交際費	561
		通信費	410
		次年度繰越金	-711
合計	20,500	合計	20,500

注\* 9月27日 10月11日  
 会員 3人 会員 4人  
 非会員 2人 非会員 0人

2015年5月31日

東日本支部長 金子 章子



## 資料 2-3

## 特別会計(西日本支部)収支決算書

JAISS 西日本支部収支報告 (2014. 6. 1~2015. 5. 30)

(単位:円)

収入		支出	
今年度支部運営費	15,000	講師料	15,000
預貯金利子	11	交通費(講師)	6,480
西日本支部研究会 参加費 (1,000×16名)	16,000	消耗品	1,404
要旨集売上(1冊)	500	会議費	8,010
以下余白		通信費	450
		次年度繰越金	156
		利子繰越金	11
小計	31,511	小計	31,511

2015年5月31日

西日本支部長 平田 祐子



## 資料 2-4

## 特別会計(第23回全国大会)収支決算書

2014(平成26年度)特別会計収支決算書

&lt;第23回全国大会収支報告&gt;

(単位:円)

収入の部		支出の部	
借入金	150,000	借入金返済	150,000
大会会費 *	123,000	会議費	8,260
		(人件費 3,000)	
		(交際費 2,160)	
		(会合費 3,100)	
		講師謝礼	60,000
		交通費	0
		印刷費	32,400
		通信費	10,643
		消耗品費	4,718
		雑費	0
		全国大会収益	6,979
合計	273,000	合計	273,000

注 \* 会員(事前)4,000円×19名=76,000円  
 会員(当日)5,000円×4名=20,000円  
 非会員(ビジター)3,000円×5名 =15,000円  
 非会員(その他)5,000円×2名=10,000円  
 非会員(当日)2,000×1名=2,000円

2015年1月26日

会計担当 西村この実



## 監査報告 (一般会計)

## 日本国際秘書学会

## 2014 (平成 26) 年度一般会計収支決算書

(2014 年 6 月 1 日から 2015 年 5 月 31 日)

単位：円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	-103,388	研究年報発行費	247,345
東日本支部繰越金	-711	(印刷費)	223,815)
西日本支部繰越金	156	(諸経費)	23,530)
全国大会収益	6,979	印刷費	45,946
会員年会費	660,000	通信費	27,743
(個人会員 [含過年度分])	651,000)	広報活動費	76,244
(学生会員)	5,000)	消耗品費	0
(新会員)	0)	会議会合費	14,480
(アソシエイト会員)	4,000)	旅費交通費	8,580
雑収入	598	分科会費	8,520
預貯金利息	41	雑費	1,000
学会運営協力金 (寄付)	330,000	手数料	3,348
		支部委託金	30,000
		次年度繰越金	430,469
	893,675		893,675

注) 第 23 回全国大会会計報告、各支部会計報告は含まれていない。

## 監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の 2014 (平成 26) 年 6 月 1 日から 2014 (平成 26) 年 5 月 31 日までの期間の関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2015 年 9 月 19 日

監事 服部 基宏



監事 島田 眞美



## 資料3-2

## 監査報告 特別会計（東日本支部）

2014年度 東日本支部収支報告書（2014.6.1～2015.5.31）

（単位：円）

収入の部		支出の部	
今年度支部運営費	15,000	会議費	4,240
支部ワークショップ参加費 （会員 @500円×7人）*	5,500	講師謝礼	16,000
		交際費	561
		通信費	410
		次年度繰越金	-711
合計	20,500	合計	20,500

注\* 9月27日 10月11日  
 会員 3人 会員 4人  
 非会員 2人 非会員0人

## 監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2014（平成26）年度 特別会計（東日本支部運営資金収支報告）の会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2015年9月19日

監事 服部 基宏 監事 島田 眞美 

## 資料3-3

## 監査報告 特別会計（西日本支部）

2014年度 西日本支部収支報告書（2014.6.1～2015.5.30）

（単位：円）

収入		支出	
今年度支部運営費	15,000	講師料	15,000
預貯金利子	11	交通費（講師）	6,480
西日本支部研究会 参加費 （1,000×16名）	16,000	消耗品	1,404
要旨集売上（1冊）	500	会議費	8,010
以下余白		通信費	450
		次年度繰越金	156
		利子繰越金	11
小計	31,511	小計	31,511

## 監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2014（平成26）年度 特別会計（西日本支部運営資金収支報告）の会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2015年9月19日

監事 服部 基宏 監事 島田 眞美 

## 監査報告 特別会計（第23回全国大会）

## 2014年度 第23回全国大会 収支報告書

(2014年11月15日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
借入金	150,000	借入金返済	150,000
大会会費 *	123,000	会議費	8,260
		(人件費 3,000)	
		(交際費 2,160)	
		(会合費 3,100)	
		講師謝礼	60,000
		交通費	0
		印刷費	32,400
		通信費	10,643
		消耗品費	4,718
		雑費	0
		全国大会収益	6,979
合計	273,000	合計	273,000

注 \* 会員(事前)4,000円×19名=76,000円  
 会員(当日)5,000円×4名=20,000円  
 非会員(ビジター)3,000円×5名 =15,000円  
 非会員(その他)5,000円×2名=10,000円  
 非会員(当日)2,000円×1名=2,000円

## 監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2014（平成26）年度 特別会計（第23回全国大会 収支報告）の会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2015年9月19日

監事 服部 基宏 監事 島田 眞美 

## 1) 2015（平成27）年度事業計画（案）

## 1. 事業年度

2015（平成27）年6月1日～2016（平成28）年5月31日

## 2. 事業概要

- (1)2015 (平成 27) 年 10 月 3 日 (土) 2015 年度通常会員総会の開催  
 (2)2015 (平成 27) 年 10 月 3 日 (土) 第 24 回全国大会開催  
 大会開催担当：西日本支部  
 開催会場：神戸女子短期大学  
 大会委員長：中川伸子  
 (3)2016 (平成 28) 年 2 月 ニュースレターNo. 29 発行  
 (4)2016 (平成 28) 年 5 月 1 日 研究年報第 23 号発行

## 3. 支部会・ワークショップ

- 東日本支部 3 回程度開催予定  
 西日本支部 3 回程度開催予定

## 4. 役員会

- 理事会兼役員会 数回開催

## 5. 各種委員会

- 第 24 回全国大会準備委員会 2 回開催  
 研究年報編集委員会 随時サイバー会議の開催

## 6. 秘書研究分科会

- (1)2015 年 6 月 28 日 第 3 回研究会および研修会開催 (名古屋)  
 (2)2015 年 7 月 日本秘書協会主催アンケート調査実施  
 (3)2015 年 8 月 企業への聞き取り調査実施  
 (4)2015 年 10 月 2 日 第 4 回研究会開催 (神戸)  
 (5)2015 年 10 月 3 日 第 24 回全国大会において中間報告  
 (6)2015 年 10 月～12 月 アンケート調査・聞き取り調査の集計分析  
 (7)2016 年 1 月 秘書グループへのインタビュー

## 資料 5

### 2) 2015 (平成 27) 年度収支予算 (案) について

(2015 年 6 月 1 日～2016 年 5 月 31 日)

収入の部			支出の部		
科目	前年実績	予算案	科目	前年実績	予算案
前年度繰越金	-103,388	430,469	研究年報発行費	247,345	300,000
東日本支部繰越金	-711	-	印刷費	45,946	60,000
西日本支部繰越金	156	-	通信費	27,743	28,000
全国大会収益	6,979	-	広報活動費	76,244	76,000
会員年会費	660,000	600,000	消耗品費	0	5,000
雑収入	598	-	会議会合費	14,480	20,000
預貯金利息	41	-	旅費交通費	8,580	20,000
学会運営協力金 (寄付)	330,000	-	手数料	3,348	5,000
			支部委託金	30,000	30,000
			雑費	1,000	0
			手数料	3,348	5,000
			分科会活動費	8,520	10,000
			予備費 (繰越金)	430,469	471,469
合 計	893,675	1,030,469	合 計	893,675	1,030,469

以 上

\*\*\*\*\*  
「事務局からのお知らせ」  
\*\*\*\*\*

**第 25 回全国大会開催（予告）**

**（1）開催日：10月1日（土曜日）**

**（2）開催会場：修文大学短期大学部（愛知県一宮市）**

\*\*\*\*\*

◎JAISS 研究年報の既刊号を販売しています。

1部 1000円

購入希望の方は学会事務局までご連絡ください。

◎会員情報の変更届について

住所、所属機関、連絡先等の変更がありましたら学会事務局までご連絡ください。

学会事務局（担当 清水） <jaiissjimu@gmail.com>

TEL077-524-3605

Fax077-523-5124

◎新入会員をご推薦下さい。

入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.jaiiss.org/>

参考 <入会資格に関する内規>

入会資格は、次に掲げる要件のうちいずれか一つを満たすこととします。

- (1) 4年制大学卒以上の学歴および専門分野における研究業績を有すること。
- (2) 4年制大学卒業以上の学歴で研究業績がない場合は、実務経験3年以上であること。
- (3) 短期大学卒業の場合は、実務経験5年以上であること。
- (4) 高校卒業の場合は、実務経験7年以上であること。

2016年4月28日 日本国際秘書学会発行  
本部事務局：〒520-0803 滋賀県大津市竜が丘24-4  
滋賀短期大学気付  
TEL077-524-3605（内線284）  
077-523-5124（Fax）  
メール jaiissjimu@gmail.com  
ホームページ <http://www.jaiiss.org/>